

# だいじょうぶ？ 当別町の

# 財政



現在、地方自治体の財政状況は非常に厳しく、行政運営、住民サービスが大幅に見直されている状況です。

当別町の財政事情は、これまでも多くの機会でお知らせして参りましたが、今までに多数寄せられた疑問・質問についてQ&A形式でお知らせします。

**Q** 最近、当別町の財政状況が「悪い」とか、「厳しい」なんて声を耳にすることがあるんですけど、当別町がどのような状況が教えてください。



**A** 現在、財政状況に問題を抱えた市町村は増加しており、当別町も残念ながら、非常に厳しい状況です。

「財政指標」と呼ばれる数値や、借金の残高を表現する「地方債残高」の数値によって、都道府県や市町村の財政状況が、良い、悪いと表現されます。（表1参照）



【表1 当別町の財政指標等】

指標等の名称	当別町	全道平均	全国平均
財政力指数	0.36	0.27	0.52
経常収支比率	93.6%	91.8%	90.2%
実質公債費比率	21.8%	16.4%	14.8%
地方債残高 <small>（人口1人当り）</small>	963,890円	680,720円	462,447円

（平成17年度決算より）

**Q** 用語の意味は良く解らないけど、『財政力指数』は、全道の平均を上回っていますね。あと、『経常収支比率』は、ちょっと大きい程度ですが、目に付くのが『実質公債費比率』と『人口1人当たりの地方債残高』が全道・全国平均を大きく上回っているようですね。これが財政状況が厳しいということですか？

**A** そのとおりです。『財政力指数』は、行政サービスを行う上で必要なお金をどれだけ調達できるかというもので、これが1に近いと財政力が強いということです。当別町の場合は、全国平均より低いですが、全道平均より高く、決して弱くはありません。

問題は、当別町では、町税など使い道が指定されていないお金に占める割合を示す『実質公債費比率』が大きく、自由に使えるといったお金が少なくなってしまうということです。

また、『地方債残高（人口1人当たり）』は、住民1人当たりで換算した借金の額を示すもので、これが全国平均の2倍以上もあり、借金が多額である状況を表しています。

**Q** なぜ、こんなに借金が増えたのですか？

**A** 当別町では平成2年頃から西当別地区を中心に人口が急増しました。このための社会資本整備や、パ

【表2 平成7年度以降の主要事業】（単位：百万円）

実施年度	事業名	起債発行額
H7	給食センター建設事業	460
H7～8	西当別小学校校舎増設工事	160
H7～9	春日団地建設事業	784
H8～9	西当別コミュニティーセンター建設事業	812
H7～9	白樺緑地公園造成事業	183
H10	ふとみ保育所建設事業	322
H10	森の道会館建設事業	32
H11	西当別中学校校舎増設事業	267
H12	駅周辺整備事業（ポッポ公園造成）	132
H11～12	総合保健福祉センター（ゆとろ）建設事業	960
H12	スターライト会館建設事業	33
H10～13	あいあい公園造成事業	483
H12～13	石狩広域穀類乾燥調整貯蔵施設（ライスセンター）建設事業	1,200
H14～18	遊遊公園造成事業	469
H13～18	当別幸町区画整理事業	674
	合計	6,971

【表：平成7年度以降の主要事業】

ブル経済崩壊後に政府が景気対策を図るために促進した公共事業に呼応し、公共施設の建設や道路整備などを行いました。(表2参照) その借金の積み重ねが現在の状況に至った要因と分析しています。

**Q** 色々な事業をやってきたんですね。今でもたくさんの借金をして事業を実施しているんですか？



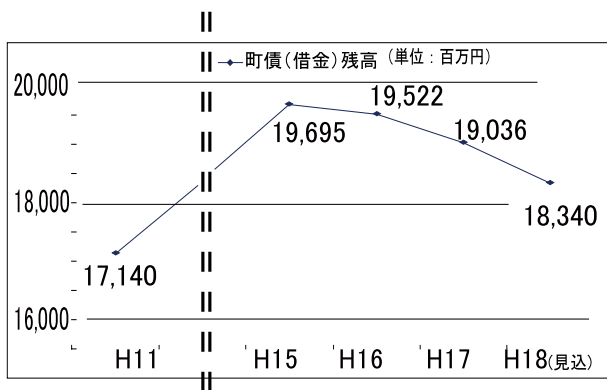
**A** 継続して行っている事業では、借金をしているものもありますが、平成12年度に「公債費負担適正化計画」を策定し、借金をする事業の抑制に努めています。平成18年度の借金を、ピーク時の平成11年度の半分以下に圧縮しました。

借入額や借金返済の額、借金の残高の推移については下記のグラフ1・2のとおりです。

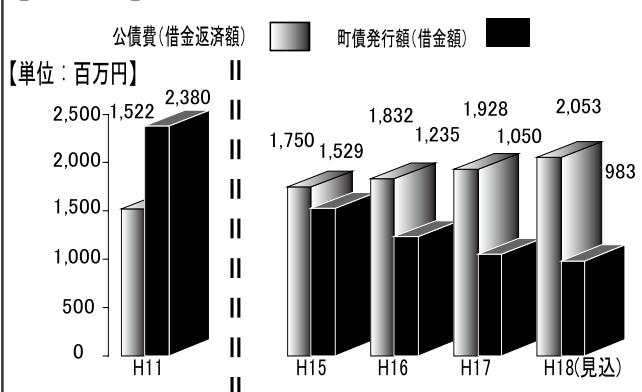
平成11年度は、借金を返す額よりも借金をした額のほうが多いですね。これでは借金の残高は、どんどん増えてしまいます。この状況が平成13年度まで続いたことから、平成15年度まで借金の残高が増えているのが解りますね。このような借金が増え続けることに歯止めをかけるため、公債費負担適正化計画をスタートさせたのです。

今後も計画どおりに借入を抑制して、借金残高を減らしていくことが、財政の健全化に繋がります。

【グラフ1】



【グラフ2】



**Q** 借金で当別町がたいへんなのは、今の説明でわかりましたが、財政が厳しいのは、借金だけが理由なのですか？他にもなにか要因があったら教えてください。



**A** あります！借金の問題については、返済額が多くなってきているという「出て行くお金」が要因でしたが、実は「入ってくるお金」にも問題があります。

それは、『地方交付税』が『三位一体改革』の影響で急激に大幅削減されたことです。

**Q** 『地方交付税』も『三位一体改革』も少し前までよく新聞で見かけた言葉なんですけど、いまいちよく理解できないんですが……。



**A** 『地方交付税』は税金などで賄いきれない財源(収入)を穴埋めするため、国から市町村へ交付されるお金で、地域格差を調整し、どの市町村でも標準的な行政サービスを受けられるようにしています。



『三位一体改革』とは、地方(市町村)の独自性を目的とした地方分権を実現するため、

- ①国から市町村などに支出される補助金の削減
- ②国の税金の一部を地方へ移譲
- ③地方交付税の見直し

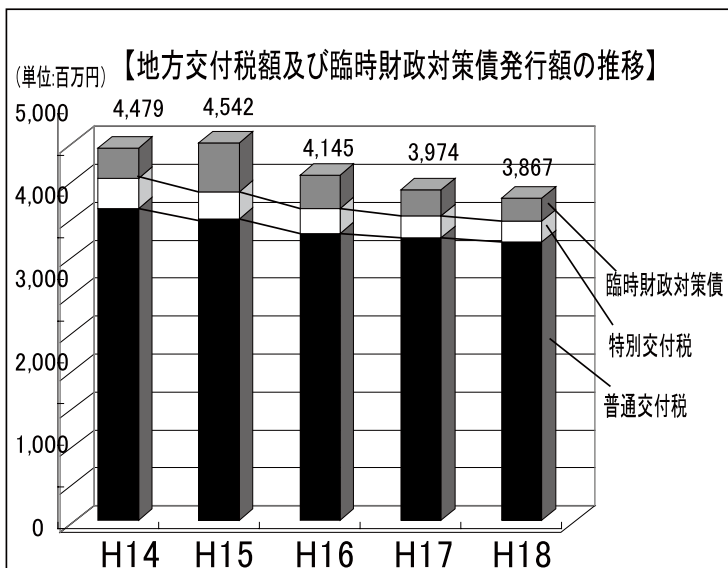
これらを平成16～18年度にかけて実施したものを指し『三位一体改革』と呼びます。

**Q** 言葉の意味は、解った気がしますが、『地方交付税』はどのくらいのペースで減ってきてるんですか？

**A** 当別町にとって『地方交付税』は歳入、入ってくるお金の約4割を占める最も大きな財源です。ちなみに町税は2割程度で、その2倍に相当します。平成15年度に45億円交付されていた地方交付税は、平成18年度には38億円と、たった3年で7億円近くも減ってしまいました。(グラフ3参照)

報道などで頻りに市町村の財政難が取り沙汰されているように、当別町だけではなく、全国の市町村でも同様に財政難の問題に直面しています。

【グラフ3】



**Q** それでは、全く財政破綻の心配は無いのですか。

**A** 今すぐに町財政が破綻することはありませんが、何の手も打たないと、赤字が発生し、それが積み積もって、財政破綻となり、日本国内で最も高い負担を強いられる上、最低の住民サービスしか提供されないという状況に陥りかねません。



このことは、町民の皆さんにも知っておいてもらわなくてはいけないことです。

そこで現在、町では、平成17年度に策定した「**行財政システム再構築プラン**」や平成12年度に策定した「**公債費負担適正化計画**」に基づいて、行財政を進めています。

このように、町では歳入、歳出を大幅に見直し、財政再建を最重要課題と位置づけ、財政破綻に陥らないための取り組みを実施しています。

今後は、今まで以上に町民の皆さんと役場が一体となって、行財政の再構築を進めることにより、現在の財政難から回避し、将来の負担軽減を図ることが必要です。

町財政の健全化は当別町が今乗り越えなければならない重要な課題です。



▼担当 財政課財政係  
(☎ 23 - 2331)

**Q** 財政状況が厳しいのは、当別町だけじゃないの？



**A** 確かに、他の市町村も財政運営は厳しいと耳にしますが、当別町はこの地方交付税の減少に、借金返済が増加しているという要因がプラスされるため、他の市町村に比べると、より厳しい財政状況といえます。



**Q** なるほど！つまり、借金の返済で出て行くお金は増加している反面、地方交付税の減少で入ってくるお金は減少している状況なんですね。



確かに厳しいですね……。今後当別町は一体どうなってしまうのでしょうか？「**財政破綻**」ということになりはしないか、不安になるのですが……。

**A** 病院事業や第3セクターなどの多額の負債を抱えていながら、その負債を不適切な会計処理で隠しているような場合、その結果、非常に大規模な赤字が明るみになり、「**財政破綻**」ということになってしまう危険もありますが、当別町では、当然そうした不適切な会計処理は一切行っていませんし、平成18年度末現在で全体の会計を合わせた決算でも赤字は発生しない見込みです。

